

まえがき

本テキストは、「プログラミング・同演習」で行う JBuilder プログラミング学習用に執筆したものです。最初に本テキストの成り立ちを簡単に説明しましょう。本テキストの原型は、2000 年度のプログラミング学習用に執筆した「Delphi 入門」にさかのぼります。このテキスト制作に当たっては、森田と共に石川（現在、大阪国際大学経営情報学部講師）と高橋（現在、稚内北星学園大学情報メディア学部講師）も議論に加わり、3 名共同で執筆を行いました。その後、年度ごとに改訂を重ねると共に、2002 年度は「C++Builder 入門」を加えました。そして、2003 年度にプログラミング言語が Java 言語に変更となった事に伴い「JBuilder7 入門」に改編、さらに 2004 年度は JBuilderX に対応するべく内容を改めて「JBuilderX 入門」とし、同時に第 8、9 章を加えました。続いて 2005 年度には第 10 章および付録 B の追加、2006 年度には第 8 章の改訂と付録 C の追加を行いました。それに表現上の全般的修正を行って本年度（2007 年度）のテキストとなった訳です。その時々が必要に応じて修正を行っていますが、基本構想は 2000 年度当初のテキストのそれを引き継いでいます。これら以前のテキストは Web 上に公開しておく予定ですから、学生諸君は、興味があれば参照してみてください。

さて、次に内容について少しふれましょう。タイトルに「・・・入門」とあるように、対象としてはプログラミングの初心者进行を想定しており、3 ヶ月弱で JBuilder を用いた Java 言語プログラミングの基礎をマスターできるようになることを目標としています。このテキストの内容を習得すれば、市販のテキスト等を読んでさらに高度な知識を独学で身に付けることができるようになると思います。

ところで、プログラミングはただ説明を読むだけでは身に付きません。そこで、本テキストでは実際にプログラムを作成し、その動作結果を確認しながら必要事項を理解して行く、というスタイルをとっています。テキスト中では、【練習問題】あるいは【基礎課題】としてそのようなプログラムを用意しています。まずは、“だまされた”と思ってテキストの指示通りプログラムを作成して下さい。その際、なぜそのような結果になったのかを理解するようにして欲しいと思います。少し面倒でもこの作業を繰り返すことにより、着実にプログラミングの力がついて行きます。そして、その理解度を確認するために【応用課題】を用意しています。これらは、作成後補助員のチェックを受けて下さい。成績評価の対象となります。

本テキストは Java 言語用としては 5 年目を迎えますが、まだ不備な点あるいは採り上げて欲しい内容等は多々あることと思います。その際は、我々に指摘して頂ければ有り難く思います。ともあれ、本テキストが、より深いプログラミングの世界に興味を持つきっかけとなることを願っています。

2007 年 10 月 1 日 著者ら記す

学習を始める前に

プログラム保存用フォルダの作成

各自、自分の PC の適当な場所（例えばマイドキュメントの中）に「**ProgJava**」というフォルダを作成してください。

以後、プログラミングの時間に作成した課題プログラムは、すべてこのフォルダ内に保存するようにします。